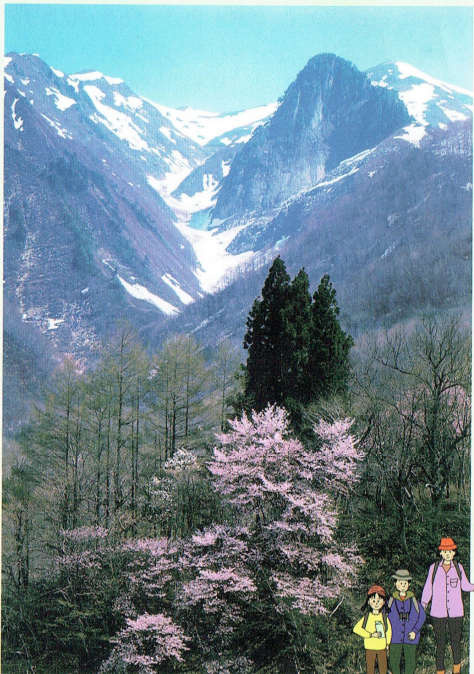


雪国越後 南魚沼の里 清水と巻機山 自然探勝ガイドマップ



新潟県南魚沼地域振興局

交通ガイド



清水民宿ご案内	
小野塚 ☎025-782-0924	清水屋 ☎025-782-1948
泉屋 ☎025-782-3478	上田屋 ☎025-782-3403
やまご ☎025-782-3402	雲天 ☎025-782-3473
お問い合わせ 南魚沼市商工観光課 ☎025-782-0255 〒949-6492 新潟県南魚沼市塩沢1370-1 http://www.city.minamionuma.niigata.jp/	

豪雪に生きる清水

標高600mの清水は冬の積雪が4mを超えることは普通で、年の5ヶ月近くは雪に閉ざされます。しかし、雪消えとともに訪れる春の息吹を受けて、人も自然も喜びに躍動します。清水がもっとも輝くときです。雪は山菜という恵みをもたらしてくれます。山菜は今でも住民の生活の糧となり、文化として定着しています。新緑がまぶしい清水にも登山者が訪れ、清水周辺は多様な自然が楽しめる最適なシーズンに入ります。巻機山が紅葉に染まるころ、今度はキノコや木の実の収穫季節が訪れます。清水を訪れる楽しみは、地元の山の幸を、自然豊かな地で賞味できることです。紅葉が巻機山を駆け下って清水に到達するころ、村は来るべき雪の季節に備えて冬支度に入っていきます。

清水を守り続けるブナの森

清水集落の裏手に広がる後山のブナの森は集落を雪崩から守るため、昔から大切に残されてきました。雪国の春の訪れは、ブナの芽吹きから始まります。雄花と雌花が一斉に咲き、毛玉のような雄花が冬芽の鱗片に混じって、残雪上にばらまかれます。雌花はクリのイガにあたる殻斗をつくり、この中からソバグリの形をした実がはじけ落ち、野生動物の貴重な食料源になります。学名 *Fagus crenata* (ファークス グレナータ) の *Fagus* は、ギリシャ語の「食べられる」という意味です。成り年と不作の年が交互にきて、6~7年の周期で大豊作が訪れますが、生き残れる実生は1%にも及びません。ここのブナの森は直径1m以上の大木が多く、雪の圧力で根曲がりした幹も目立ちます。樹皮は灰色で明るく落ち着いた雰囲気を感じられます。これだけ見事な森は、二次林が多い巻機山麓ではここだけです。林内には雪圧に耐えるしなやかな枝をもつ常緑のユキツバキやエゾユズリハ、ヒメアオキなどの低木が茂っています。太い幹にはキツツキが開けた丸い穴が見つかります。ほかの野鳥やムササビなどが巣に利用することもあります。幹に細い傷跡があれば、それはツキノワグマが幹を滑り降りるときにつけた爪跡です。ブナの森は多くの野生動物も養う恵みの森なのです。



後山のシラナギ

前山の植生の棲み分け

集落の登川対岸の尾根斜面にも、広葉樹のすばらしい天然林があります。集落裏手の後山に対して前山と呼んでいます。ここはブナやミズナラを中心にカエデの仲間も混じり、春の新緑から秋の紅葉まで、美しい季節の移ろいを見せてくれます。後山と違ってミズナラが多いの



雪に埋まる清水 (3月下旬)



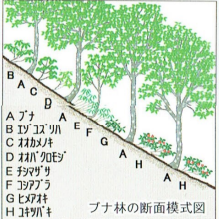
西谷後からの巻機山



ねぐらのムササビ



ツキノワグマの爪跡



ブナ林の断面模式図



芽吹きの様子でわかる植生

ミズナラの実

は、ここの斜面は急峻で土壌が形成されにくく、またそのような環境に強いミズナラがブナに代って入り込んでいるからです。植生の違いがよくわかるのは春です。ブナはどの樹種よりも早く葉を展開し、その新緑はまばゆいほどです。一方、ミズナラはやっと芽吹きの準備を始めているありさまで、林相の色彩的な表情の違いが、環境に応じた植生の棲み分けを教えてくれるわけです。

清水自然探勝ガイドマップ

清水自然探勝モデルコース

●威守松山コース [中級向]	
清水バス停	609m ●35分
A25番鉄塔	709m ●50分
威守松山	609m ●80分
飲用沢徒渉点	309m ●40分
桜坂林道	259m ●20分
清水バス停	

●清水街道コース [一般向]	
清水バス停	459m ●45分
大倉堰堤口	409m ●30分
B30番鉄塔	359m ●40分
B27番鉄塔	259m ●30分
城の腰	159m ●15分
清水バス停	

●寺屋敷コース [一般向]	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●見事なサウグミ林	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●この地域では珍しいシラカシの古木	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●ヤセ尾根状、足場悪い	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●急斜面、足場も悪く危険、ロープあり	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●カタクリの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

●イワハゼの群落	
清水バス停	259m ●20分
イガシラ	159m ●10分
寺屋敷	159m ●10分
威守松尾根	259m ●30分
柄沢林道	309m ●25分
A27番鉄塔	259m ●25分
清水バス停	

溪畔林の宿命

集落の前を流れる登川の河原には、美しい樹形の溪畔林が見られます。これはシロヤナギを中心とした林です。河原は常に洪水にさらされる不安定な立地ですが、洪水の頻度が少ないとヤナギ類が入り込み、環境の安定が続くと大木に発達します。しかし、ここのシロヤナギ林は1985年の洪水で打撃を受け、今ある林はその名残りです。付近には再生中のヤナギ林も見られます。破壊と再生の繰り返し…それが溪畔林の宿命なのです。



登川のシロヤナギ林

外っ原周辺の環境と景観

外っ原はスギの植林を除いて高木がありません。もともとここは扇状地で、古い時代に米子沢や割引沢などの山側で岩石の崩落が相次ぎ、これらの巨岩が押し出されて外っ原の原型を造ったと考えられています。このため外っ原は地味が悪く、いまだに高木が育たないのです。しかし、山際は土壌がたまって棚田が開かれ、イガシラの棚田では巻機山の山岳景観と一体になった、日本でも数少ない棚田景観が見られます。



イガシラの棚田と巻機山

雪に支配される巻機山の自然

かつて機織りが盛んだっ
たころの魚沼地方周辺の人
々は、巻機山を機織りの守
護神として生業の支えにし
てきました。たしかに山頂
一帯の繊細かつ優美な容姿は、まさに機織り神そのもの
といえます。しかし、南魚沼の里から望む巻機山は、荒
々しさだけが目立つ険しい山です。優しさときびしさを
合わせ持つ巻機山の自然を創造したものは、氷河時代の
気候と冬の季節風がもたらす多量の雪です。山頂一帯の
積雪は10〜30m以上になると推定されています。この
積雪が雪崩や雪圧といった作用で自然を磨きあげ、今日
の荒々しくも美しい巻機山を創りあげたのです。

巻機山の自然を代表する雪田草原

清水からニセ巻機まで登
ると、眼前に緑の草原が広
がります。その美しさは思
わず息をのむほどです。こ
れは雪田草原と呼ばれる湿
原の一種です。多雪によって長期間積雪に覆われると
ころでは、植物の生育する期間が短く、また、雪解けが続
いて過湿状態におかれます。このような環境では樹木類
は入り込めず、夏季の短期間でも生育できるスマガヤな
どの草本植物で占められる湿性草原が形成されます。雪
田草原こそが巻機山の魅力を代表する自然なのです。

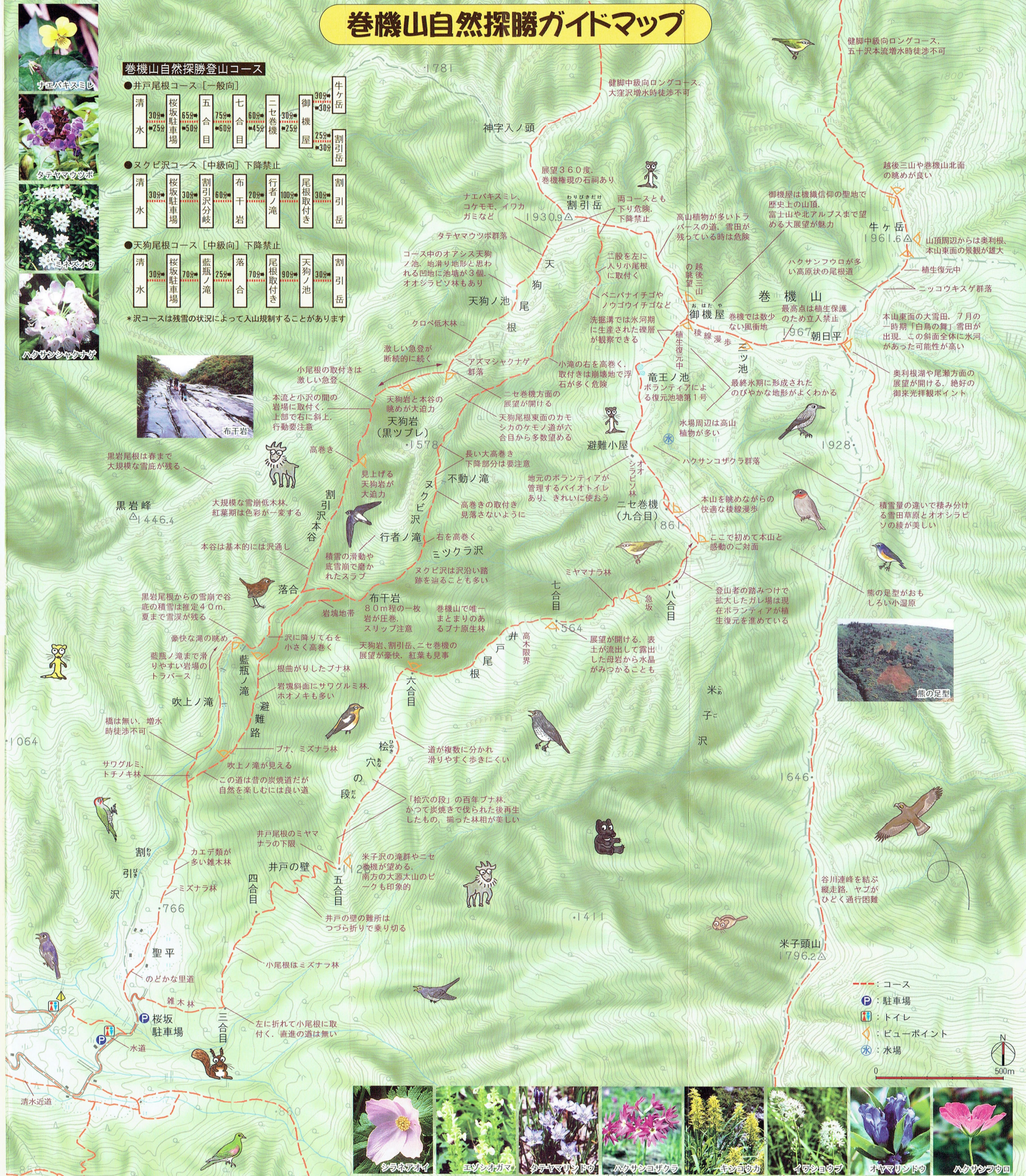
雪田草原を飾る池塘の不思議

巻機山にとっての池塘は、風景に輝きと潤いを与えて
くれるひとしずくの真珠です。池塘とは湿原の中の小池
を指し、地下水が地表付近まで達した平坦地が微傾斜地
に多く見られます。このような立地にわずかな窪地があ
ると、地下水から染み出た水がたまります。水たまりの
周りでは水湿を好む植物が繁殖し、その植物遺体が毎年
堆積して土壌を積み上げま
す。水底は堆植物がありま
せんから、水たまりはだん
だん深くなって池塘に成長
すると考えられています。

景観に深みを与えるオオシラビソ林の謎

巻機山の上部は亜高山帯ですが、ブナ林を抜けるとミ
ヤマナラなどの低木林になってしまいます。まるで高山
のように見えるため、このエリアを偽高山帯と呼んでい
ます。ところが、山頂付近にはオオシラビソ林が少数分
布し、雪田草原との綾がなんとも見事です。なぜ一部に
しかオオシラビソ林が存在しないのかは未だ謎ですが、
最終氷期以後、大陸型の針葉樹林が温暖多雪化に伴って
消滅し、その空白域に別の針葉樹が復活した…それが、
多雪に適応したオオシラビソだったのです。しかし、日
本海に面した脊梁山脈では気象や地形の要因が絡んで、
まだ復活していないか、ようやくその途についた状況
らしいのです。それだけに
巻機山のオオシラビソ林は
貴重な存在といえます。

巻機山自然探勝ガイドマップ



巻機山に氷河があった？

信じられない話ですが、
巻機山に氷河があった可能
性は高いのです。本山東面
は秋口まで雪が残り、斜面
全体を見渡すと浅いカル
状地形になっています。最終氷期の5〜6万年前は世界的
な氷河の発達期でしたが、まだ海水面が高く日本海に対
馬暖流が流入していました。日本の山岳の降雪量も膨大
で、北アルプスの檜沢では横尾付近まで氷河が来ていた
ほどです。今でも積雪が30m超と推定される本山東面に
氷河があってもおかしくはないのです。

のびやかな山頂地形の秘密

山頂周辺斜面にみられる
のびやかな地形は、考えて
みれば不思議です。最終氷
期の2万年ほど前は海水面
が下がって日本海は閉ざさ
れ、降雪量はぐっと減っていました。山頂付近は堆積岩
が乗っています。それが寒冷な凍結破砕作用を受けて岩
屑になり、さらに霜柱や氷の凍結融解作用で岩屑がズル
ズルと移動しながら斜面を滑らかにしていったのです。

お花畑のいろいろ

雪田草原の代表は湿り気を好むハクサンコザクラやイ
ワイチョウなど。ニッコウキスゲやコバイケイソウは適
湿な雪田草原に。広い尾根上にはハクサンフウロやキオ
ンなどの高茎草原が見られます。風当たりの強い風衝地
にはミネズオウ、ガンコウランなどの矮性低木が地を這
い、安定した崩壊地にはナ
エバキシミレやタテヤマウ
ツボが群落を作っています。
環境による植物の違いを知
るのも楽しいものです。

巻機山の美しい景観は
ボランティアに支えられている

かつての巻機山は、登山者の踏みつけで植生が破壊さ
れ、裸地化と浸食の拡大、池塘破壊などを誘発していま
した。これを危機した財団法人日本ナショナルトラスト
と東京農業大学自然環境保全学研究室は、地元と提携し
ボランティアによる保全活動を立ち上げました。1977年
のことです。
活動は登山道整備や池塘復元、そして植生復元に及び
ました。植生復元の仕事は地道です。成果が表われ始め
たのは10数年経てからです。破壊された池塘もすべて水
面が復活し、青空を映しています。今、皆さんが感動し
て眺めている巻機山の風景は、こうしてよみがえったの
です。このことを心の片隅に入れて、巻機山の景観を楽
しんでください。

